



全国の猛暑日(日最高気温35℃以上)の年間日数は増加しています



統計当初の10年間  
(1910~1919)  
平均年間日数  
**0.4日**

最近の10年間  
(2015~2024)  
平均年間日数  
**4.6日**

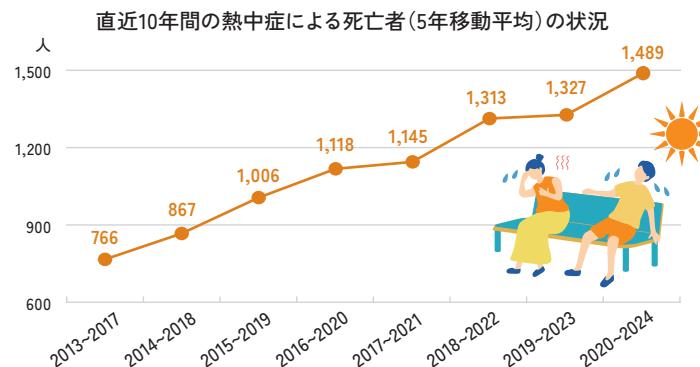
東京大学 未来ビジョン研究センター 江守正多教授

2014年に制作した「2050年の天気予報」の動画で、2050年の東京の連続真夏日日数を50日と想定しましたが、2023年には64日の記録が出て、想定を早々と上回りました。予想以上に早く、我々は記録的な猛暑を経験しています。

出典:気象庁「[全国13地点平均]日最高気温35℃以上(猛暑日)の年間日数」より消費者庁作成。  
注)全国の13地点は、網走、根室、稚内、釧路、山形、石巻、福島、宮城、岩手、青森、長野、岐阜、愛知、三重になります。都市化の影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく選出しています。



熱中症による死者が急増しています  
(5年平均で1500人に迫る勢い)

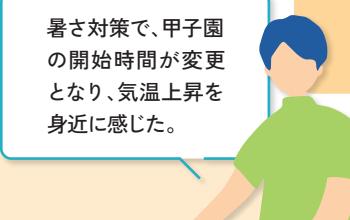


出展:厚生労働省 人口動態設計より消費者庁作成  
令和6年の死者数にあっては概数(令和6年5月から9月)

猛暑の影響で、暑すぎて小学校の夏休み中のプールが中止になってしまい驚いた。



暑さ対策で、甲子園の開始時間が変更となり、気温上昇を感じた。

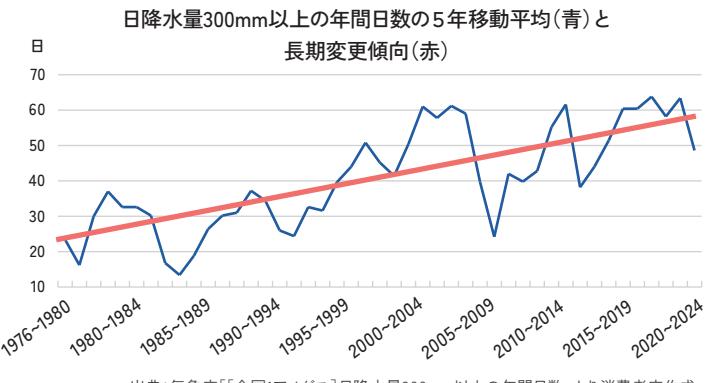


# 気候変動。 それは遠い未来ではなく 今そこにある「危機」

このような危機を作ったのも、それに拍車をかけているのも、今後過去を悔いることになるのも私たち。「私一人が何かをしたとしても…」と言っている場合ではありません。一人一人が、普段の消費行動をグリーン志向に少し変えることで未来が大きく変わることもかもしれません。



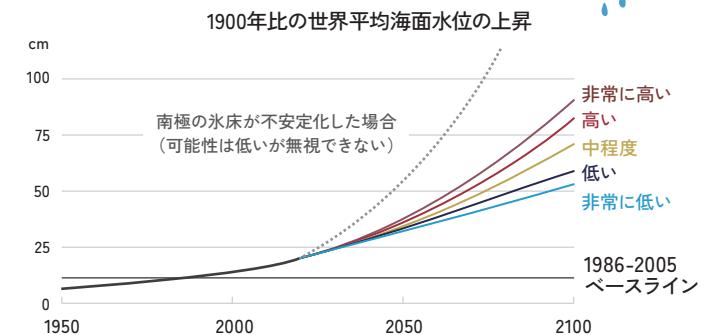
極端な大雨の年間日数が直近40年で倍増しています



出典:気象庁「[全国1アメダス]日降水量300mm以上の年間日数」より消費者庁作成。



海面水位の上昇に伴って  
リスクが増大します



出典:IPCC第6次評価報告書統合報告書の解説資料 2023年11月版(環境省)に加筆

東京大学 未来ビジョン研究センター 江守正多教授

海面上昇の影響で、日本でも既に、砂浜の浸食や高潮リスクの増大など起きていると考えられます。日本は都市が沿岸部に集中しているため、さらなる海面上昇は日本に深刻な被害をもたらすでしょう。